

「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業
企業の社会貢献活動としての「森と都市の交流プロジェクト」開発 企画書

実施主体 NPO 法人木の家だいすきの会

実施場所 宮崎県綾町（体験交流事業）及び東京都内（CSR 研究会）

| | |
|--|--|
| <p>提案する活動の概要</p> <p>(1) テーマ、地域の課題、モデル事業で達成・実現したいこと</p> | <p>①地域の課題</p> <p>宮崎県綾町には、世界遺産への登録を目指す国内で最大規模の照葉樹林帯が残され、原生的な照葉樹林の保護とあわせ、人工林や二次林から照葉樹林への復元が課題となっている。これを推進するため、平成 17 年 5 月、九州森林管理局、綾町、宮崎県、関連 NPO（てるはの森の会）、(財)日本自然保護協会の 5 者が綾川流域照葉樹林保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）に関する協定を結んだ。</p> <p>森林の保全のためには、森を支えるその地域に暮らす人々の生活の基礎的条件、とりわけ雇用の場がなければならない。森林地帯の地域振興を考えた場合、農林業等の地域資源を生かした複合的な産業の振興が必要である。またそれは自然と共生することが大前提となる。</p> <p>一方、企業や都市住民の森林保全に対する意識も徐々に高まりを見せており、自然と共生した地域振興の方向として、従来型の観光事業でない都市と森林地帯を結ぶ交流事業が注目されている。</p> |
| <p>(2) 活動内容の案</p> | <p>②モデル事業で達成・実現したいこと</p> <p>綾の照葉樹林を再生するための間伐や植林などの森林ボランティアと、地域資源を生かした生活体験型プログラムを組み合わせた交流事業を実験的に実施する。それを評価することにより、今後 CSR（企業の社会的責任）活動のひとつとして継続できるプログラムを開発する。</p> <p>それらにより、</p> <ol style="list-style-type: none">1) 地元での受け入れ体制を担う関係団体及び行政機関2) 首都圏での企画調整・広報活動および実践を担う NPO、CSR 関係者3) 多主体の連携による地域マネジメントのノウハウの蓄積を担う研究機関 <p>からなる、継続的な事業化のための推進組織の構築を目指す。</p> <p>①生活体験プログラムの発掘と立案</p> <ul style="list-style-type: none">・グループヒヤリング調査により、自然農体験、地元食材の料理講習と試食体験、食育講座、工芸制作体験などのプログラムを発掘し、生活体験プログラムを立案する。 <p>②実験的交流事業の企画と実施</p> <ul style="list-style-type: none">・森と都市の交流 CSR 研究会において、実験的事业を企画するとともに、CSR 活動としての枠組みを検討する。・大都市圏に住む家族世帯を対象に、モニター（2 世帯程度）を募集し、平成 20 年 11 月中旬に 2 泊 3 日の交流事業を実験的に実施する。対象としては、宮崎県人会や首都圏の CSR 関係者の参加を想定する。・1 日目：首都圏～宮崎移動、オリエンテーション、農業体験、地元との交流会・2 日目：綾の照葉樹林帯に入って、人工林の間伐作業など（指導：綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会）・3 日目：綾町内で生活体験交流（①で立案した生活体験プログラムにより、綾の食と農・工芸などを体験する内容を想定）・事業の評価のため、モニターへの聞き取り調査を行う。 <p>③実験的交流事業の評価</p> <ul style="list-style-type: none">・実験的に実施した事業について関係者で事後評価を行い、CSR（企業の社会的責任）活動として継続可能な交流事業の内容や、枠組みづくりに向けた課題を整理する。 <p>④継続可能な交流プログラムづくりと事業化のための推進組織の構築</p> <ul style="list-style-type: none">・実験事業の成果をふまえ、CSR（企業の社会的責任）活動として継続可能な交流プログラム案を作成する。また、地元での受け入れ体制を担う関係団体、行政、首都圏での企画調整・広報活動を担う NPO、企業 CSR 関係者、研究機関等の連携のあり方など運営システムの検討を行い、事業化のための推進組織の構築を目指す。 |

| | |
|--|--|
| <p>(3) 先進性、モデル性、地域の自立に繋がる活動等のアピール点</p> | <p>本企画は、NPOが仲立ちとなり、地元（宮崎）と首都圏における地元団体、行政機関、NPO、企業など、遠隔地間における多様な団体、市民の参加により、森林保全（地球環境保全）や地域振興に係る地元活動と企業の社会的責任を結びつける点が特徴である。</p> <p>また、中山間地域のまちづくりやパートナーシップによる地域マネジメントについて実践的な研究の蓄積のある大学の協力を得て、首都圏と地元を結ぶ地域マネジメントの新たな仕組みを構築しようという点に特徴がある。</p> |
| <p>(4) 多様な主体との連携・協働</p> | <p>(森林保全団体との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綾の照葉樹林の復元に取り組む綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会と連携。 ＊綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会：九州森林管理局、宮崎県、綾町、てるはの森の会、財団法人日本自然保護協会 <p>(行政との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県と連携して、本事業のステークホルダーと調整する。 ・綾町の協力を得て生活体験型プログラムの担い手を対象としたグループヒヤリング調査を行う。 <p>(企業CSR関係者との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏において（仮称）森と都市の交流プロジェクトCSR研究会を設置し、信託銀行、証券会社、総合商社等のCSR関係者を募る。 <p>(早稲田大学・都市地域研究所との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域のまちづくり、協働による地域マネジメントに関する実践的な蓄積を生かし、首都圏と地元を結ぶ多主体連携による地域マネジメントシステムの開発の役割を担う。 <p>(旅行会社等との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な交流プログラムの中身が見えてきた段階で、役割を明確にして参加を求める。 |
| <p>(5) モデル事業終了以降の展望や活動内容、波及効果</p> | <p>本実験事業の評価をふまえ、平成21年度以降は継続可能な仕組みづくりに取り組む。</p> <p>平成21年度は、継続的な事業の推進を行うため、事業化推進組織を立ち上げ、平成20年度に作成した交流プログラム案をもとに、企業CSR関係者向けの訪問調査などにより、ニーズの掘り起こしを行う。こうした活動を通じて、実現可能な交流プログラムに修正するとともに、綾町における事業実施体制を構築し、成功事例をつくる。</p> <p>平成22年度は、綾町の事例をモデルとして、宮崎県内のより厳しい条件の中山間地の市町村と企業の地域貢献活動との連携事業を発掘し、大都市と地方、企業と中山間地の連携による地域マネジメントのノウハウの蓄積を図る。</p> |